

秀作

魔法のプラスチックマネー

神奈川県・川崎市立塚越中学校 3年 天池 莉穂

「カードをお願いします。」

私の前に並んでいた女の人はそう言ってレジのおばさんにカードを渡して爽やかに買い物をしました。いつも財布から細かいお金を出すのに苦戦している私には、その姿がとても大人な感じがしてカッコよく見えました。大人になったら「これ、カードで。」なんて言ってみたい!! その魔法のようなカードに興味をもった私は、家に帰ってから銀行員だった母に聞いてみることにしました。

「クレジットカードってとても便利そうだけど、機械に通しただけで実際にはお金を払ってないわけだし、どんなしくみになっているのかな？」

母は

「クレジットカードを機械に通したときレシートみたいな紙がでてくるの。その紙を自分で持っていて、決まった日にちまでにクレジットカードを発行する時に決めた口座にお金を振り込むんだよ。手もとにお金がなくても商品を買えて便利なんだけど、気をつけなきゃいけないところはあくまでクレジット会社からお金を借りている状態っていうことを忘れてはいけないところね。」

と説明してくれました。クレジット会社からお金を借りている状態だったなんて、驚きです。私はさらに疑問に思ったことを聞きました。

「もし、決まった日にちに口座にお金を振り込めなかったらどうなるの？」

「この前思いきってお母さん、1万円分の服買ったでしょ？ あの時実は、振り込むの忘れちゃって。そうしたら1ヶ月後に電話がかかってきてちょっとお金をとられたのよ。」

母はすぐ振り込んだので、何百円かで済んだそうですが、1年2年……と払わないでおいたら買った品物の金額より高いお金を払わなくてはならなくなることもあるそうです。もっと詳しく知りたくなったのでインターネットで調べてみました。クレジットカードの使いすぎでよくおこるのが「カード破産」というものです。決まった日にちまでに振り込めなかった場合、消費者から年に品物に対する10～20%の割合で高く払わせることができます。「100円で15%だとすれば、1年で115円か。なんかピンとこないな。本当に実際の金額より高くなるなんてことがあるのかな？」と思いが

らいろんなページを見ていると、「もし、あなたが年利15%のクレジット会社から10万円使った場合、1年間でどのくらいになると思いますか?」というクイズがありました。考えてみると……なんと11万5,000円にもなるのです。100円なんかで考えていた私があまかったです。だいたいの方は高いバイクとか旅行にクレジットカードを使うのだから払えなかった場合、簡単にそのくらいの額がとられてしまいます。しかも2年目は11万5,000円に15%の年利がつくので数年で品物の額を上回ってしまうような気がしました。自分の収入を棚に上げて、クレジットカードでどんどん好きな物を買っては絶対に「カード破産」してしまいます。そもそもクレジットという言葉には「信用」という意味があります。クレジットカードは、返す能力があるか、過去に支払いが遅れたことがないか、申込書に書かれた内容にウソがないかなどの審査を受けて「信用」と引き換えに初めて発行してもらうことができるのだと思います。だから、私が大人になってカードを使えるようになったらその信用を裏切らないためにもしっかり計画を立ててからカードを使えるようになりたいです。

私が興味をもった魔法のカードは「自分の欲しい物を買える代わりに、責任と信用を借りる大人のカード」でした。私は、クレジットカードの有効な使い方は収入に合った買い物をすることと振り込む日にちを忘れないこと、最近ではカードを勝手に使われたりカードの磁気を盗まれたりする事件もあるのでそういったことにも気をつけなければいけないと思います。でも一番大切だと思うことは、責任をもてるようになり、信用を裏切らない覚悟ができてからカードを発行してもらうことです。この2つは生きていく上でも大切だと思います。プラスチックマネーと言われるほど便利なクレジットカード。夢を叶えるステキな道具になるか、人生を狂わせる悪魔になるかは自分しだいです。「これ、カードで。」はちょっと考えてから言うものだなと思いました。

